

令和6年度有田市文化賞受賞者が決定

令和6年度有田市文化賞受賞者が決定いたしましたので、お知らせします。

有田市文化賞は、文化の発展に貢献したと認められる個人または団体に対し、その功績をたたえ市長が表彰するもので、本市における地域文化の向上と振興を図ることを目的に平成5年度に制定、今回で32回目の表彰となります。

表彰式は次の日程で行います。

【有田市文化賞表彰式】

■日時／11月8日(金) 午前10時～

■場所／有田市文化福祉センター

■受賞者

文化功労賞 宮井 朗(みやい あきら)氏
文化功労賞 有田市吹奏楽団

文化奨励賞 上野山 佳代子(うえのやま かよこ)氏

----- この件に関するお問い合わせ先 -----

〒649-0392 和歌山県有田市箕島50
有田市役所秘書広報課
担当: 橙木・澤田
TEL: 0737-22-3715 FAX: 0737-83-2222
Email: hisho@city.arida.lg.jp

令和 6 年度

受 賞 者

(敬称略)

文化功労賞 宮 井 朗

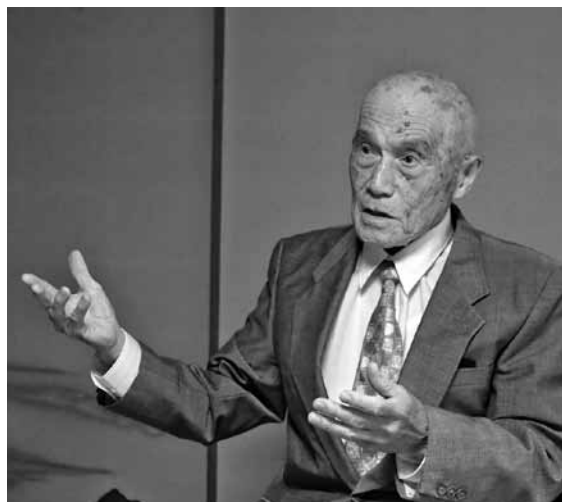
文化功労賞 有田市吹奏楽団

文化奨励賞 上野山 佳代子

文化功労賞

みや い あきら
宮 井 朗

※平成25年 有田市文化奨励賞受賞



昭和6年、有田市に生まれる。現在、野在住。

昭和63年9月から、紀州有田商工会議所発行の「紀州有田商工ニュース」で季節の風物詩欄の写真を担当。有田市の文化・歴史の紹介を行うとともに、平成14年2月から平成26年12月まで、同紙にて「有田市の今と昔」を写真を用いて分かりやすく比較紹介された。

文化奨励賞受賞後も、市内で銅鐸や銅戈が発見されていることや「有田市の歴史をもっと多くの方に知ってほしい、知らせなければならない」という強い使命感から、冊子の執筆や講演など多方面で活躍。

令和3年には、冊子「野・山地の歴史」、令和5年には「有田市の銅鐸と銅戈」を刊行。分かりやすい表現を用いて住民に郷土史と文化財への理解を促すなど、地域の文化意識の高揚に努められてきた。

令和5年には講演会を複数回にわたり開催。歴史の普及活動という点において、誰よりも熱心に活動されている。

有田市文化協会では郷土史部にも所属し、本市の歴史を紐解く活動にも取り組まれている。

氏は人一倍郷土愛に満ち溢れ、市民への郷土愛を育む文化活動に尽力しており、本市文化の振興・発展に尽力されてきた功績は多大なものがある。

文化功労賞

有田市吹奏楽団

団長 えさき みつのぶ
江崎 満伸

※平成18年 有田市文化奨励賞受賞

※平成20年 第44回和歌山県吹奏楽
コンクール

職場・一般B部門 金賞

※平成25年、26年

第49回、第50回和歌山県吹奏楽
コンクール

職場・一般A部門 銀賞



有田市吹奏楽団は、情操を養い相互の親睦と技術の向上を目的として、昭和57年に箕島及び耐久高校卒業生15名で結成され、現在は20名の会員が所属している。

毎年7月に行われている有田市芸能大会には第1回から参加し、準備や進行等にも協力している。他にも、地区の演芸大会や夏祭り、福祉希望のつどい、病院や介護施設への慰問演奏、保育所、小学校などでの演奏、市内外各種行事に積極的に出演するなど、日頃から地域に根ざした音楽活動に尽力し、吹奏楽の振興と市民に音楽鑑賞の機会を提供し、本市の音楽文化の発展に大きく貢献されている。

また、有田地方の中学校、高等学校の吹奏楽部に声をかけ、合同演奏会「有田地方中学、高校オータムコンサート」の開催や、他市の交流会にも参加されるなど、多方面で精力的な活動を行っており、その演奏活動は大変好評を得ている。

近年ではSNSを活用して情報発信に取り組み、あらゆる人が気軽に音楽に触れる機会を作り、音楽の魅力を伝えている。

今秋・冬も各種イベントでの演奏が目白押しとなっており、結成42周年を迎え、さらに積極的に活動されている。音楽を通じ人々に希望や活力を与え、音楽文化の振興・発展に尽力されてきた功績は多大なものがある。

文化奨励賞

うえの やま か よ こ
上野山 佳代子

(華名：香岳斎佳代月)

(茶名：上野山宗佳)

※有田市文化協会 茶華部 部長

※有田市美術家協会 華道部 部長

※和歌山県いけばな協会 理事



昭和22年、有田市に生まれる。現在、箕島在住。

華道は都未生流、茶道は裏千家に精通している。

華道においては、中学3年生という若さで正教授となり、指導者の資格を取得。家業の呉服店で働く傍ら鍛錬を積み、平成20年には家元から華督を許された。これまで指導した生徒は250名を超え、命の刹那や感謝の気持ちを伝えることに力を注いでこられた。

和歌山県庁や和歌山駅、箕島駅構内等の展示スペースにボランティアとして持ち回りで花を生け、訪れる方々を楽しませている。「人のお役に立てたら」という氏の姿勢に感銘を受けたお弟子さんたちが、きのくに線の他の駅でもボランティアで花を生けられている。

茶道においても教授として後進の指導に尽力されている。昭和56年からは、お茶会の売り上げを困難な状況にあるこどもたちや障害児者父母の会に寄付されるなどの活動にも取り組んでこられた。

また、得生寺の会式やぶっとく幼稚園にてお茶会を開催。ひまわり作業所でも月1回の教室を十数年にわたり続け、おじぎの仕方やお茶の頂き方を指導されるなど、多くの方が日本の伝統文化に触れ、楽しみながら「所作」や「思いやりの心」を学んでほしいという思いで情操教育に尽力されている。

華道・茶道のすそ野を広げながら魅力を広く伝え、本市文化の向上発展に長きにわたり貢献されている。